関連学会印象記

第37回日本臨床生理学会総会

小川研一*

第37回日本臨床生理学会総会は奈良県立医科大学第一内科土肥和紘教授を会長として，平成12年11月17，18日の2日間に「なら100年会館」を会場として開催された．

本学会ホームページ（http://applphys.umin.ac.jp）によると，日本臨床生理学会 The Japanese Society of Applied Pysiology（JSAP）は，昭和45年4月9日に開催された第1回脈波研究会（吉村正治会長）を端緒とし，昭和52年の第14回研究会より日本脈波学会に改称，その後，昭和56年11月28日に日本脈波学会と臨床生理研究会を統合して，第18回日本臨床生理学会となった．

この学会の目的は，臨床医学すべての領域をめぐる学際的研究ならびに各種疾患の病態生理学的研究を介して，疾患の成因・機序・病態・治療・予防の解明をはかり，併せて医学の進展に寄与することであると謳われている．臨床医学の学会は昨今の専門化の流れのなかで高度に細分化してきており，この様な学際的学会は殆どなく，非常にユニークな存在である．第37回日本臨床生理学総会の学会プログラムを見てもこの学会の特色は歴然である．

特別講演

今回の日本臨床生理学会総会では2つの特別講演が催された．

まず特別講演1として湯布院厚生年金病院の有田眞先生の「KATPチャンネルによる虚血心筋の保護」が行われた．氏は心筋細胞単離パッチ膜を用いた基礎的実験による心筋細胞表面膜にKATPチャンネルが存在する証拠の提示から説き起こし，精緻なin vitro，in vivo実験の成果を踏まえて虚血心筋傷害におけるKATPチャンネルの役割を詳細に解説した．つづけて氏はKATPチャンネル開口薬の臨床的意義につき自験dataを用いて解説，臨床家の多いこの学会会員の聴衆に大きな感銘を与えた．薬理学的研究から実際臨床への理論的展開はこの学会の掲げるテーマに的確に回答を与えるもので特別講演にふさわしい実に秀逸な講演であった．

特別講演2は東北大学大学院医学研究科生物化学の岡本宏先生の「細胞の運命－死と再生の分子機構」であった．本講演では膵β細胞における細胞死の機構に酸素ラディカルによるポリADPリボース合成酵素活性化が細胞内NAD^+の枯渇が重要な役割を演じるとのいわゆる「岡本モデル」が導かれた実験的研究が詳細に解説された．「アポトーシス」がゆっくりした細胞死の機構として知られているが，このモデルは急性細胞死を説明するものである．これは膵β細胞以外の組織においても発生することが示され，普遍的な重要性を有するものであることが知られている．本講演もまたこの学会の特別講演にふさわしい高度な内容であり，聴衆に深い感銘を与えた．

本学会総会の会長である土肥教授は「脳循環からみた他臓器病変」の演題で会長講演を行った．氏の専門である腎臓病学を発展させ広く動脈硬化症に基づく種々臓器障害を脳循環に関連して詳しい研究成果を解説した．氏の全ての医学的研究は臨床データに始まり臨床データに終わるとの信念の実践でありこの学会の会長講演にふさわしい内容であった．

教育講演

この学会の目的として教育活動があるが，本総会でも8題の教育講演が2日目の午前にメイン会

*獨協医科大学心血管・肺内科

Presented by Medical*Online

場で行われた．内容はこの学会らしく以下の演題であった．

1．神経生理学：奈良県立医科大学第一生理山下勝幸先生「神経発生から神経再生へ：神経細胞の増殖制御機構」
2．高血圧症：獨協医科大学循環器内科石光俊彦先生「高血圧の治療と予防における新しい展開」
3．微小循環：川崎医科大学泌尿器科山本徳則先生「病態モデル生体紙球体微小循環と血流の可視化」
4．泌尿器科学：信州大学泌尿器科西沢理先生「ビデオウロダイナミックスによる下部尿路機能の評価」
5．皮膚科学：兵庫医科大学伊藤孝明先生「うっ滞性皮膚炎・潰瘍の治療」
6．循環器科学：国立循環器病センター生理機能検査部増田喜一先生「心エコードプラ法による心機能評価－ことに拡張機能について－」
7．循環器科学：国立循環器病センター心臓血管内科後藤葉一先生「心疾患に対する運動療法」
8．病理学：奈良県立医科大学総合医療・病態検査学中村忍先生「細胞診」

いずれの講演もその分野の専門研究者により教育的な基礎的項目から最新の知見までを明快に解説し，多くの聴衆を集めていた．

シンポジウム

シンポジウムは1．腎機能の修復に向けて，2．生理現象とレプチン，3．開心術，心移植時の心筋保護：細胞から個体へ，の3つが行われた．いずれも基礎的研究から臨床的研究を含み学際的な示唆に富む内容であった．この学会の会員は臨床各科の医師から各分野の基礎研究者，パラメディカルまで広い領域に渡っており3つのシンポジウムとも熱心な討論が行われた．

ワークショップ

ワークショップとして1．睡眠時上気道閉塞の臨床，2．糖・脂質のながれとその異常，3．無症候性脳梗塞脳血行障害の臨床生理的問題点の3つが行われ，呼吸器病学，代謝学，神経内科学のトピックスが発表された．3つとも臨床生理学的な主題を中心に最新の研究成果が発表され他の細分化された専門学会では見られない興味深い討論が為された．

一般演題

一般演題は心機能，心筋症，画像診断，自律神経，脳・神経，腎・体液，運動器・筋肉，呼吸生理，呼吸調節，肺癌・COPDほか，消化器，およびパラメディカルの各セッションに分かれ全て口演で行われた．最近は一般演題はポスター発表が多いが，演者にとっては口演発表の方が準備にもやりがいがあり時間・会場の事情が許せば口演とした方が良いと思われる．本総会は緻密なスケジュール計画でこれを実現した点主催者の御苦労が伺えた．

この学会にはサテライト研究会として生体カオス研究会と分子生理研究会が平行して開催されている．今回は第4回になり4年前の初回よりおよそ5題程度のユニークな研究発表が続けられている．ここでの発表はこの学会の機関誌に全文掲載されることになっており，同雑誌のレベル向上に資している．この2つの研究会は研究会名に示されるとおり最新の研究分野であり会員数も順調に増加しており今後の発展が期待される．

Presented by Medical*Online